

DRUG

INFORMATION



2012 No. 16

平成24年6月28日発行

1. 採用医薬品の後発医薬品への切替について 1
2. 新規登録後発医薬品情報 3

岐阜大学医学部附属病院・薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

※ Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp (担当：安田)

採用医薬品の後発医薬品への切替について

先月 5 月 21 日開催の科長会議にて、次頁に記載した院内採用医薬品について後発医薬品へ切り替えることが承認されました。つきましては、これらの医薬品については 7 月 1 日以降、院内の在庫がなくなり次第順次後発医薬品へ切り替えることとします。

院外処方についても、院内の処方が後発医薬品に切り替わると同時にオーダに追加することと致します。なお、院外処方では従来の先発医薬品の処方も出来るようにしますが、やむを得ない事情(後発医薬品に保険適応がない、患者からの強い要望がある等)を除き後発医薬品への変更不可の指示は避けていただくようご配慮願います。

【採用医薬品数について】

当院での採用医薬品数は現在 **1,390 品目**(この内、後発医薬品もしくは後発医薬品へ切替可能な医薬品は **562 品目**)であり、今回の後発医薬品への切替後の採用後発医薬品数は **103 品目**(全品目の **7.4%**、後発切替対象品目の **18.3%**)という状況です。

【オーダについて】

処方オーダ時の薬品検索では、新規採用の後発医薬品名および旧採用の先発医薬品名のいずれからでも検索出来るように致します(例えば、新たに切替採用となる「**ガスドック散 10%**」の場合は、『**ガスドック**』および『**ガスター**』のいずれでも検索出来るように致します)。ただし、切り替えの際は一定の期間、先発医薬品と後発医薬品の両者が処方時に混在することがあるため、在庫の状況によっては薬剤部から修正を依頼する場合がありますので、ご配慮願います。

後発医薬品への切替品目

院内採用医薬品		切替後発医薬品	
(メーカー名)		(メーカー名)	
【内用薬】			
ガスター散 10%	アステラス	ガスドック散 10%	杏林
グラケールカプセル 15mg	エーザイ	メナテトレノンカプセル 15mg 「タナベ」	田辺製薬販売
ザンタック錠 75	GSK	ラニチジン錠 75mg 「マイラン」	マイラン
ザンタック錠 150	GSK	ラニチジン錠 150mg 「マイラン」	マイラン
セファドール錠 25mg	日本新薬	ジフェニドール塩酸塩錠 25mg 「CH」	田辺製薬販売
セフゾン細粒小児用 10%	アステラス	セフジニル小児用細粒 10% 「タナベ」	田辺製薬販売
タガメット錠 200mg	大日本住友	ダンスール錠 200mg	三和化学
トランサミンカプセル 250mg	第一三共	リカバリンカプセル 250mg	旭化成ファーマ
フロモックス小児用細粒 10%	塩野義	セフカペンピボキシル塩酸塩細粒小児用 10% 「マイラン」	マイラン
ミノマイシンカプセル 50mg	ファイザー	ミノベン錠 50	沢井
ミノマイシンカプセル 100mg	ファイザー	ミノベン錠 100	沢井
ミノマイシン顆粒 2%	ファイザー	ミノベン顆粒 2%	沢井
【外用薬】			
アズノール軟膏 0.033%	日本新薬	ハスレン軟膏 0.033%	テバ
チモプトール点眼液 0.5%	MSD	チモレート点眼液 0.5%	日本点眼薬
ホクナリンテープ 0.5mg	マルホ	ツロブテロールテープ 0.5mg 「HMT」	久光
ホクナリンテープ 1mg	マルホ	ツロブテロールテープ 1mg 「HMT」	久光
ホクナリンテープ 2mg	マルホ	ツロブテロールテープ 2mg 「HMT」	久光
ボルタレンサボ 12.5mg	ノバルティスファーマ	ボンフェナック坐剤 12.5	ゼリア
ボルタレンサボ 25mg	ノバルティスファーマ	ボンフェナック坐剤 25	ゼリア
ボルタレンサボ 50mg	ノバルティスファーマ	ボンフェナック坐剤 50	ゼリア
モーラスパップ 30mg	久光	タッチロンパップ 30	三和化学
【注射薬】			
アミカシン硫酸塩注射液 100mg 「日医工」	日医工	アミカマイシン注射液 100mg	Meiji Seika ファルマ
トランサミン注 10%	第一三共	リカバリン注 1000mg	旭化成ファーマ
ファルモルビシン注射用 10mg	協和発酵キリン	エピルビシン塩酸塩注射用 10mg 「NK」	日本化薬
ファルモルビシン注射用 50mg	協和発酵キリン	エピルビシン塩酸塩注射用 50mg 「NK」	日本化薬
ベプシド注 100mg	ブリストルマイヤーズ	エトポシド点滴静注液 100mg 「サンド」	サンド

【内用薬】

(ファモチジン)

▶ガスドック散 10% 〔後〕

Gasdock 100mg/g

〔杏林〕

〔薬価〕98.7 円/g

【効】①胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、上部消化管出血(消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍、出血性胃炎による)、逆流性食道炎、Zollinger-Ellison 症候群 ②下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善：急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期

【用】(内) ①1 回 20mg を 1 日 2 回(朝食後、夕食後又は就寝前)投与する。1 回 40mg を 1 日 1 回(就寝前)投与することもできる。上部消化管出血には注射剤で治療を開始し、内服可能になった後は経口投与に切りかえる。②1 回 10mg を 1 日 2 回(朝食後、夕食後又は就寝前)投与する。1 回 20mg を 1 日 1 回(就寝前)投与することもできる。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、再生不良性貧血、汎血球減少、無顆粒球症、溶血性貧血、血小板減少、Stevens-Johnson 症候群、Lyell 症候群、肝機能障害、黄疸、横紋筋融解症、QT 延長、意識障害、痙攣、間質性腎炎、急性腎不全、間質性肺炎 (類薬)不全収縮

(メナテトレノン)

▶メナテトレノンカプセル 15mg「タナベ」 〔後〕

Menatetrenone 15mg/Cp

〔田辺製薬〕

〔薬価〕20.9 円/Cp

〔貯法〕遮光

【効】骨粗鬆症における骨量・疼痛の改善

【用】(内) 1 日 45mg を 3 回に分けて食後に投与する。

【禁】ワルファリンカリウムを投与中の患者

(ラニチジン塩酸塩)

▶ラニチジン錠 75mg「マイラン」 〔後〕

Ranitidine 75mg/錠

〔マイラン〕

〔薬価〕9.9 円/錠

〔貯法〕遮光

▶ラニチジン錠 150mg「マイラン」 〔後〕

Ranitidine 150mg/錠

〔薬価〕13.6 円/錠

〔貯法〕遮光

【効】①胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、Zollinger-Ellison 症候群、逆流性食道炎、上部消化管出血(消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍、急性胃粘膜病変による) ②下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善：急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期 ③麻酔前投薬

【用】(内) ①1 回 150mg を 1 日 2 回(朝食後及び就寝前)投与する。1 回 300mg を 1 日 1 回(就寝前)投与することもできる。上部消化管出血には注射剤で治療を開始し、内服可能となった後、経口投与に切りかえる。②1 回 75mg を 1 日 2 回(朝食後及び就寝前)投与する。1 回 150mg を 1 日 1 回(就寝前)投与することもできる。③1 回 150mg を手術前日就寝前及び手術当日麻酔導入 2 時間前の 2 回投与する。

【禁】本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、再生不良性貧血、汎血球減少、無顆粒球症、血小板減少、肝機能障害、黄疸、横紋筋融解症、意識障害、痙攣、ミオクロヌス、間質性腎炎、Stevens-Johnson 症候群、Lyell 症候群 (類薬)心ブロック

(ジフェニドール塩酸塩)

▶ジフェニドール塩酸塩錠 25mg「CH」 〔後〕

Difenidol Hydrochloride 25mg/錠

〔田辺製薬〕

〔薬価〕7.7 円/錠

【効】内耳障害に基づくめまい

【用】(内) 1 回 25～50mg を 1 日 3 回投与する。

【禁】重篤な腎機能障害のある患者、本剤に過敏症の既往歴のある患者

(セフジニル)

▶セフジニル小児用細粒 10%「タナベ」 〔後〕

Cefdinir 100mg/g

〔田辺製薬〕

〔薬価〕62.3 円/g

〔貯法〕遮光

【効】表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱

【用】(内) 小児：1 日 9～18mg/kg を 3 回に分割して投与する。

【禁】本剤の成分によるショックの既往歴のある患者

【原則禁】本剤の成分又はセフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、皮膚障害、血液障害、大腸炎、間質性肺炎、PIE 症候群、腎障害、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸

.....
(シメチジン)

▶ ダンスール錠 200mg (後)

Dansul 200mg/錠 [三和化学]

〔薬価〕5.6 円/錠

【効】①胃潰瘍、十二指腸潰瘍 ②吻合部潰瘍、Zollinger-Ellison 症候群、逆流性食道炎、上部消化管出血(消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍、出血性胃炎による) ③下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善：急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期

【用】(内) ①1 日 800mg を 2 回(朝食後及び就寝前)に分割投与する。1 日量を 4 回(毎食後及び就寝前)に分割もしくは 1 回(就寝前)投与することもできる。②1 日 800mg を 2 回(朝食後及び就寝前)に分割投与する。1 日量を 4 回(毎食後及び就寝前)に分割投与することもできる。上部消化管出血には注射剤で治療を開始し、内服可能となった後は経口投与に切り替える。③1 日 400mg を 2 回(朝食後及び就寝前)に分割投与する。1 日量を 1 回(就寝前)投与することもできる。

【禁】シメチジンに対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、再生不良性貧血、汎血球減少、無顆粒球症、血小板減少、間質性腎炎、急性腎不全、Stevens-Johnson 症候群、Lyell 症候群、肝障害、心ブロック、意識障害、痙攣

.....

(トラネキサム酸)

▶ リカバリンカプセル 250mg (後)

Rikavarin 250mg/Cp [旭化成]

〔薬価〕6.4 円/Cp

【効】①全身性線溶亢進が関与すると考えられる出血傾向(白血病、再生不良性貧血、紫斑病等、及び手術中・術後の異常出血) ②局所線溶亢進が関与すると考えられる異常出血(肺出血、鼻出血、性器出血、腎出血、前立腺手術中・術後の異常出血) ③下記疾患における紅斑・腫脹・痒痒等の症状：湿疹及びその類症、蕁麻疹、薬疹・中毒疹 ④下記疾患における咽頭痛・発赤・充血・腫脹等の症状：扁桃炎、咽喉頭炎 ⑤口内炎における口内痛及び口内粘膜アフター

【用】(内) 1 日 750～2,000mg を 3～4 回に分割投与する。

【禁】トロンビンを投与中の患者

.....

(セフカペンピボキシル塩酸塩水和物)

▶ セフカペンピボキシル塩酸塩細粒小児用 10%

「マイラン」 (後)

Cefcapene Pivoxil Hydrochloride 100mg/g

[マイラン]

〔薬価〕128.9 円/g

〔貯法〕遮光

【効】小児：表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱

成人(嚥下困難等により錠剤の使用が困難な場合)：表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、子宮頸管炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎

【用】(内) 小児：1 回 3mg/kg を 1 日 3 回食後投与する。

成人(嚥下困難等により錠剤の使用が困難な場合)：1 回 100mg を 1 日 3 回食後投与する。難治

性又は効果不十分と思われる症例には 1 回 150mg を 1 日 3 回食後投与する。

【禁】本剤の成分によるショックの既往歴のある患者

【原則禁】本剤の成分又はセフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、急性腎不全、無顆粒球症、血小板減少、溶血性貧血、偽膜性大腸炎、出血性大腸炎、TEN、Stevens-Johnson 症候群、紅皮症、間質性肺炎、好酸球性肺炎、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、横紋筋融解症、低カルニチン血症に伴う低血糖

.....
(ミノサイクリン塩酸塩)

▶ミノペン錠 50mg (後)

Minopen 50mg/錠 [沢井]

〔薬価〕17.1 円/錠

〔貯法〕遮光

▶ミノペン錠 100mg (後)

Minopen 100mg/錠

〔薬価〕30.1 円/錠

〔貯法〕遮光

【効】表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症)、精巣上体炎(副睾丸炎)、尿道炎、淋菌感染症、梅毒、腹膜炎、感染性腸炎、外陰炎、細菌性膣炎、子宮内感染、涙囊炎、麦粒腫、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、上顎洞炎、顎炎、炭疽、つつが虫病、オウム病

【用】(内) 初回量を 100~200mg とし、以後 12 時間毎あるいは 24 時間毎に 100mg を投与する。

【禁】テトラサイクリン系薬剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、SLE 様症状の増悪、TEN、Stevens-Johnson 症候群、剥脱性皮膚炎、薬剤性過敏症症候群、血液障害、重篤な肝機能障害、急性腎不全、間質性腎炎、呼吸困難、間質性肺炎、PIE 症候群、腭炎、精神神経障害、出血性腸炎、偽膜性大腸炎

.....

(ミノサイクリン塩酸塩)

▶ミノペン顆粒 2% (後)

Minopen 20mg/g [沢井]

〔薬価〕12 円/g

〔貯法〕遮光

【効】表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、涙囊炎、麦粒腫、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、感染性口内炎、猩紅熱、炭疽、つつが虫病、オウム病

【用】(内) 小児：1 日 2~4mg/kg を 12 あるいは 24 時間毎に粉末のまま投与する。用時水を加えてシロップ状にして用いることもできる。

【禁】テトラサイクリン系薬剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、SLE 様症状の増悪、TEN、Stevens-Johnson 症候群、剥脱性皮膚炎、薬剤性過敏症症候群、血液障害、重篤な肝機能障害、急性腎不全、間質性腎炎、呼吸困難、間質性肺炎、PIE 症候群、腭炎、精神神経障害、出血性腸炎、偽膜性大腸炎

.....

【外用薬】

(ジメチルイソプロピルアズレン)

▶ハスレン軟膏 0.033% (後)

Haslen (0.033%) 500g/個 [テバ]

〔薬価〕2.5 円/g

〔貯法〕遮光

【効】湿疹、熱傷・その他の疾患によるびらん及び潰瘍

【用】(外) 適量を 1 日数回塗布する。

【禁】本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

.....

(チモロールマレイン酸塩)

▶チモレート点眼液 0.5% (後)

Timoleate (0.5%) 5mL/本 [日本点眼薬]

〔薬価〕116.7 円/mL

〔貯法〕遮光

【効】緑内障、高眼圧症

【用】(外) 0.25%製剤を 1 回 1 滴、1 日 2 回点眼す

る。十分な効果が得られない場合は 0.5%製剤を用いて 1 回 1 滴、1 日 2 回点眼する。

【禁】気管支喘息又はその既往歴のある患者、気管支痙攣・重篤な慢性閉塞性肺疾患のある患者、コントロール不十分な心不全・洞性徐脈・房室ブロック(Ⅱ、Ⅲ度)・心原性ショックのある患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】眼類天疱瘡、気管支痙攣、呼吸困難、呼吸不全、心ブロック、うっ血性心不全、脳虚血、心停止、脳血管障害、SLE

.....
(ツロブテロール)

▶ツロブテロールテープ 0.5mg「HMT」 (後)

Tulobuterol 0.5mg/2.5cm²/枚 [久光]

〔薬価〕31.8 円/枚

▶ツロブテロールテープ 1mg「HMT」 (後)

Tulobuterol 1mg/5cm²/枚

〔薬価〕43.3 円/枚

▶ツロブテロールテープ 2mg「HMT」 (後)

Tulobuterol 2mg/10cm²/枚

〔薬価〕59.2 円/枚

【効】下記疾患の気道閉塞性障害に基づく呼吸困難等諸症状の緩解：気管支喘息、急性気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫

【用】(外) 成人には 2mg、小児には 0.5～3 歳未満には 0.5mg、3～9 歳未満には 1mg、9 歳以上には 2mg を 1 日 1 回胸部、背部又は上腕部のいずれかに貼付する。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】アナフィラキシー様症状、 β_2 刺激剤で重篤な血清カリウム値の低下

.....
(ジクロフェナクナトリウム)

▶ボンフェナック坐剤 12.5mg (後)

Vonfenac 12.5mg/個 [ゼリア]

〔薬価〕19.3 円/個

〔貯法〕冷所

▶ボンフェナック坐剤 25mg (後)

Vonfenac 25mg/個

〔薬価〕26.4 円/個

〔貯法〕冷所

▶ボンフェナック坐剤 50mg (後)

Vonfenac 50mg/個

〔薬価〕30.8 円/個

〔貯法〕冷所

【効】①下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎：関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、後陣痛 ②手術後の鎮痛・消炎 ③他の解熱剤では効果が期待できないか、あるいは他の解熱剤の投与が不可能な場合の急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)の緊急解熱

【用】(外) 成人：1 回 25～50mg を 1 日 1～2 回、直腸内に挿入するが、年齢、症状に応じ低用量投与が望ましい。低体温によるショックを起こすことがあるので、高齢者に投与する場合には少量から投与を開始すること。

小児：1 回 0.5～1mg/kg を 1 日 1～2 回、直腸内に挿入する。年齢、症状に応じ低用量投与が望ましい。低体温によるショックを起こすことがあるので、少量から投与を開始すること。1 歳以上 3 歳未満：6.25mg/回、3 歳以上 6 歳未満：6.25～12.5mg/回、6 歳以上 9 歳未満：12.5mg/回、9 歳以上 12 歳未満：12.5～25mg/回

【警告】幼小児・高齢者又は消耗性疾患の患者は、過度の体温下降・血圧低下によるショック症状があらわれやすいので、これらの患者には特に慎重に投与すること。

【禁】消化性潰瘍のある患者、重篤な血液の異常のある患者、重篤な肝障害のある患者、重篤な腎障害のある患者、重篤な高血圧症のある患者、重篤な心機能不全のある患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、直腸炎・直腸出血又は痔疾のある患者、アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者、インフルエンザの臨床経過中の脳炎・脳症の患者、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、トリアムテレンを投与中の患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、出血性ショック又は穿孔を伴う消化管潰瘍、再生不良性貧血、溶血性貧血、無顆粒球症、血小板減少、Stevens-Johnson 症候群、Lyell 症候群、紅皮症、急性腎不全、ネフローゼ症候群、重症喘息発作、間質性肺炎、うっ血性心不全、心筋梗塞、無菌性髄膜炎、重篤な肝障害、急性脳症、横紋筋融解症、脳血管障害

.....

(ケトプロフェン)

▶タッチロンパップ 30mg 〔後〕

Touchron 30mg/10×14cm/枚 〔三和化学〕

〔薬価〕12.3 円/枚

〔貯法〕遮光

【効】下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎：変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎(テニス肘等)、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛

【用】(外) 1 日 2 回、患部に貼付する。

【禁】本剤又は本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者、アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者、チアプロフェン酸・スプロフェン・フェノフィブラート並びにオキシベンゾン及びオクトクリレンを含有する製品(サンスクリン、香水等)に対して過敏症の既往歴のある患者、光線過敏症の既往歴のある患者

【重副】ショック、アナフィラキシー様症状、喘息発作の誘発、接触皮膚炎、光線過敏症

【注射薬】

(アミカシン硫酸塩)

▶アミカマイシン注射液 100mg 〔後〕

Amikamycin 100mg/1mL/A 〔Meiji Seika〕

〔薬価〕272 円/管

【効】敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎

【用】(注) ①筋注：成人 1 回 100～200mg を 1 日 1～2 回筋注する。小児は 1 日 4～8mg/kg とし、1 日 1～2 回筋注する。②点滴静注：成人 1 回 100～200mg を 1 日 2 回点滴静注する。小児は 1 日 4～8mg/kg とし、1 日 2 回点滴静注する。新生児(未熟児を含む)は、1 回 6mg/kg を 1 日 2 回点滴静注する。点滴静注の場合には 30 分～1 時間かけて投与すること。

【禁】本剤の成分並びにアミノグリコシド系抗生物質又はバシトラシンに対し過敏症の既往歴のある患者

【原則禁】本人又はその血族がアミノグリコシド系抗生物質による難聴又はその他の難聴のある患者

【重副】ショック、第 8 脳神経障害、急性腎不全

(トラネキサム酸)

▶リカバリン注 1000mg 〔後〕

Rikavarin 1,000mg/10mL/管 〔旭化成〕

〔薬価〕64 円/管

【効】①全身性線溶亢進が関与すると考えられる出血傾向(白血病、再生不良性貧血、紫斑病等、及び手術中・術後の異常出血) ②局所線溶亢進が関与すると考えられる異常出血(肺出血、鼻出血、性器出血、腎出血、前立腺手術中・術後の異常出血) ③下記疾患における紅斑・腫脹・痒痒等の症状：湿疹及びその類症、蕁麻疹、薬疹・中毒疹 ④下記疾患における咽頭痛・発赤・充血・腫脹等の症状：扁桃炎、咽喉頭炎 ⑤口内炎における口内痛及び口内粘膜アフター

【用】(注) 1 日 250～500mg を 1～2 回に分けて静注又は筋注する。術中・術後等には必要に応じ 1 回 500～1,000mg を静注するか、又は 500～2,500mg を点滴静注する。

【禁】トロンビンを投与中の患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【重副】ショック

(エピルビシン塩酸塩)

▶エピルビシン塩酸塩注射用 10mg 「NK」 〔後〕

Epirubicin Hydrochloride 10mg/V 〔日本化薬〕

〔薬価〕3,131 円/瓶

▶エピルビシン塩酸塩注射用 50mg 「NK」 〔後〕

Epirubicin Hydrochloride 50mg/V 〔日本化薬〕

〔薬価〕14,728 円/瓶

【効】①急性白血病 ②悪性リンパ腫 ③肝癌 ④乳癌、卵巣癌、胃癌、尿路上皮癌(膀胱癌、腎盂・尿管腫瘍) ⑤膀胱癌(表在性膀胱癌に限る) ⑥乳癌(手術可能例における術前あるいは術後化学療法)

【用】(注) ①15mg/m² を約 20mL の注射用水に溶解し、1 日 1 回 5～7 日間連日静注し 3 週休薬する。これを 1 クールとし、必要に応じて 2～3 クール反復する。②40～60mg/m² を約 20mL の注射用水に溶解し、1 日 1 回静注し 3～4 週休薬する。これを 1 クールとし、3～4 クール反復する。③60mg/m² を約 20mL の注射用水に溶解し、肝動脈内に挿入されたカテーテルより、1 日 1 回肝動注し 3～4 週休薬する。これを 1 クールとし、3～4

クール反復する。④60mg/m²を約 20mL の注射用水に溶解し、1 日 1 回静注し 3～4 週休薬する。これを 1 クールとし、3～4 クール反復する。⑤60mg を 30mL の生理食塩液に溶解し、1 日 1 回 3 日間連日膀胱腔内に注入し 4 日間休薬する。これを 1 クールとし、2～4 クール反復する。注入に際しては、ネラトンカテーテルで導尿し十分に膀胱腔内を空にした後、同カテーテルより注入し、1～2 時間膀胱腔内に把持する。⑥1) シクロホスファミドとの併用：100mg/m² を約 20mL の注射用水に溶解し、1 日 1 回静注後、20 日間休薬する。これを 1 クールとし、4～6 クール反復する。2) シクロホスファミド・フルオロウラシルとの併用：100mg/m² を約 20mL の注射用水に溶解し、1 日 1 回静注後、20 日間休薬する。これを 1 クールとし、4～6 クール反復する。

【警告】本剤を含むがん化学療法は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本療法が適切と判断される症例についてのみ実施すること。適応患者の選択にあたっては、各併用薬剤の添付文書を参照して十分注意すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。

【禁】心機能異常又はその既往歴のある患者、本剤に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者、他のアントラサイクリン系薬剤等心毒性を有する薬剤による前治療が限界量(ドキソルビシン塩酸塩では総投与量が 500mg/m²、ダウノルビシン塩酸塩では総投与量が 25mg/kg 等)に達している患者

【重副】心筋障害、骨髄抑制、ショック、間質性肺炎、萎縮膀胱、肝・胆道障害、胃潰瘍、十二指腸潰瘍

.....
(エトポシド)

▶エトポシド点滴静注液 100mg「サンド」(後側)
Etoposide 100mg/5mL/A [サンド]
〔薬価〕3,863 円/瓶

【効】①肺小細胞癌、悪性リンパ腫、急性白血病、睾丸腫瘍、膀胱癌、絨毛性疾患 ②胚細胞腫瘍(精巣腫瘍、卵巣腫瘍、性腺外腫瘍) ③以下の悪性腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法：小児悪性固形腫瘍(ユーイング肉腫ファミリ

一腫瘍、横紋筋肉腫、神経芽腫、網膜芽腫、肝芽腫その他肝原発悪性腫瘍、腎芽腫その他腎原発悪性腫瘍等)

【用】(注) ①1 日量 60～100mg/m²を 5 日間連続点滴静注し、3 週間休薬する。これを 1 クールとし、投与を繰り返す。②確立された標準的な他の抗悪性腫瘍剤との併用療法を行い、1 日量 100mg/m²を 5 日間連続点滴静注し、16 日間休薬する。これを 1 クールとし、投与を繰り返す。③他の抗悪性腫瘍剤との併用において、1 日量 100～150mg/m²を 3～5 日間連続点滴静注し、3 週間休薬する。これを 1 クールとし、投与を繰り返す。

【警告】1.本剤を含むがん化学療法は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本療法が適切と判断される症例についてのみ実施すること。適応患者の選択にあたっては、各併用薬剤の添付文書を参照して十分注意すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。
2.本剤を含む小児悪性固形腫瘍に対するがん化学療法は、小児のがん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで実施すること。

【禁】重篤な骨髄抑制のある患者、本剤に対する重篤な過敏症の既往歴のある患者、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

【重副】骨髄抑制、ショック、アナフィラキシー様症状、間質性肺炎

.....